

医療用ロボ開発を支援

神戸市と神大、病院内に拠点

神戸市と神戸大は、神戸・ポートアイランドの神大医学部付属病院国際がん医療・研究センターに、医療機器の開発拠点を設ける。メディカロイド（神戸市中央区）が手掛ける医療用ロボット開発を支え、医療と工学の両方に精通した人材を育成する。

国内では、病院内に医療機器の開発拠点を設けるのは珍しいという。先進的な研究開発や人材育成を支援する内閣府の事業に「神戸未来医療構想」として採択された。

エア・ウォーター、NTTドコモ、オプティム、川崎重工業、シスメックス、スカイジェット・メディカ

ルなども参画する。開発中の遠隔操作による内視鏡手術支援ロボットに、AI（人工知能）画像診断システムや高画質の8Kカメラ、第5世代（5G）移動通信システムを使った遠隔診断・治療など最新技術を搭載することを支援する。スタートアップや地元中小企業の参入も後押しする。

久元喜造市長は「医療産業都市に進出する企業のシナジー（相乗効果）を高めたい」と強調。神戸大の武田廣学長は「大学院生が実践的なものづくりを体験できる場を整え、産官学による人材育成を進めたい」と話した。

（長尾亮太）